



区議会第1回定例会・区民の切実な願い実現へ奮闘

保育士の処遇改善・保育の質の確保を求める請願の採択を

区民のみなさんの願いが込められた請願が、各委員会で審査、表決が行われました。日本共産党区議団は、各請願について紹介議員となり採択に全力をあげています。私は、文教委員会に付託された「認可保育園を増設し待機児童の解消を求める請願」と「渋谷区の責任において安全・安心な保育の実現を求める請願」の紹介議員として委

員会での説明を行いました。以下、安全・安心の保育の実現を求める請願についての説明(要旨)をご紹介します。「本会議での結果は、別途お知らせします。」

に求めるとともに、区としても独自の処遇改善を求めるものです。保育士の賃金は、この間処遇改善の努力が行われてきましたが、政府の賃金構造基本統計調査によると2019年度の全産業平均月額が33.8万円に対して、保育士は24.45万円と約10万円も低いのが実態です。コロナの感染リスクにさらさ

れながら、子どもの健やかな発達のためにがんばっている保育士や職員の処遇を抜本的に引き上げることが求められます。第2番目は、子ども一人ひとりの健やかな発達を保障するために、認可保育園の面積基準の引き上げを、国と都に求めるとともに、区としても引上げを求めるものです。日本の2歳児以上の面積基準は、終戦直後の1948年から73年間改定されていません。一方5歳児の平均身長は7cmも大きくなっています。国際的にも低い基準で

あり、人生の土台を作る就学前の保育環境の拡充は重要であり、感染症対策として実現が求められます。以上、よろしくご審議いただき、採択していただきますようお願いいたします。

文教委員会に付託された請願の委員会での表決結果

請願名	表決結果	自民党	シブヤ笑顔	公明党	立憲民主党	共産党	れいわ渋谷
認可保育園の増設で待機児童の解消を求める請願	不採択	×	×	×	×	○	○
渋谷区の責任において安全・安心な保育の実現を求める請願	不採択	×	×	×	○	○	○

PCR検査・「攻め」と「守り」の抜本拡大を要請

緊急事態宣言解除前の3月18日、日本共産党区議団は長谷部区長に対して、感染再拡大を防ぐ区としての責任を果たすよう緊急に要請を行いました。柳沢副区長が対応しました。

渋谷区として、新型コロナウイルスの感染再拡大を防ぐために、PCR等検査の抜本的拡大を求める緊急要望書

新型コロナウイルス感染症は、感染の下げ止まりは顕著で、感染再拡大の危険をはらんだ緊迫した状況です。渋谷区でも学校や高齢者施設で相次いで新規陽性者が確認されています。特に、感染者に占める高齢者の割合が高止まりし、病床のひっ迫と死者数の増加が続いていることは重大です。また感染力が強い変異株の流行も強く懸念されます。ワクチンは社会全体で効果が表れるまでに一定期間が必要であり、ワクチン頼りになれば、感染の急拡大に対応できなくなります。

感染再拡大を防ぎ、終息させるためには、無症状感染者を発見・保護するためのPCR等の検査を抜本的に拡充することが急務中の急務です。

政府が、高齢者施設に対する社会的検査とともに、無症状者に焦点をあてた「幅広いPCR検査」(モニタリング検査)の実施を明記したことは前進ですが、「1日1万件程度をめざす」などで、極めて規模が小さく不十分です。

これまでも新規感染者の減少にともなって検査数を減らしたことが、次の感染拡大の波を招く一因となりました。こうした悪循環を繰り返さないために、検査能力に余裕がある今こそ、コロナ封じ込めのための大規模検査の実施に踏み切ることが緊急に求められます。

よって、日本共産党渋谷区議団は、下記の事項について直ちに実施するよう強く要望します。

記

1. 社会的検査を医療機関、高齢者施設、障がい者施設等などに広げ、職員に対して頻回・定期的に行い、対象を利用者にも広げ感染防御をはかること

西村担当大臣は、「頻回・定期的」という専門家の意見もあり、頻回で行いたい」と表明し、東京都医師会も、高齢者施設での1週間に1回程度の検査を実施するとしていますが、早急に高齢者施設にとどまらず、医療機関、障がい者施設、学校、幼稚園、保育園も対象にした頻回・定期的な検査を実施するよう国や都に求めるとともに、区としても直ちに実施すること。

2. モニタリング検査を抜本的に拡大し、感染封じ込めをはかること

検査を1日10万~20万件の規模に拡大して繁華街を対象に区域を定めて、希望者全員にPCR検査を実施するよう国や都に求めるとともに、区としても実施すること。

3. 経済的困窮世帯に生理用品を無料で支給すること

以上